

2. 沿線住民アンケート調査結果

(1) 実施概要

調査日	2016年7月下旬～8月下旬
調査対象	高岳引込線沿線に居住する住民 4,037 世帯
調査方法	自治会経由で配布、郵送回収
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答者の個人属性 ・ 高岳引込線の沿線のまちづくりについて ・ 普段の外出について ・ 高岳引込線に路面電車を走らせることについて
回収数	世帯：1,237（回収率 30.6%）、人数：2,656

地区	調査対象自治会	配布数 (世帯)	回収数 (世帯)	回収率 (%)
小山	1 駅東通り二丁目	604	106	17.5
	2 駅東通り三丁目	297	89	30.0
	3 城北	134	54	40.3
	4 鹿島向原	372	137	36.8
大谷	5 泉崎	10	4	40.0
	6 土塔一	522	112	21.5
	7 犬塚	511	136	26.6
	8 中久喜	176	43	24.4
	9 泉ヶ丘	45	21	46.7
	10 竹親会	85	29	34.1
	11 丸山	164	63	38.4
	12 小山東ニュータウン	800	335	41.9
	13 高専宿舎	18	9	50.0
	14 西山	37	5	13.5
桑	15 出井開拓	77	28	36.4
	16 下出井	93	42	45.2
	17 東出井	92	24	26.1
計		4,037	1,237	30.6

回答パターン	世帯	人数
1 1人の回答	298	298
2 2人の回答	600	1,200
3 3人の回答	207	621
4 4人の回答	93	372
5 5人の回答	33	165
白票・無効票	6	
	1,237	2,656

(2) 実施結果

1) 高岳引込線の沿線のまちづくりについて

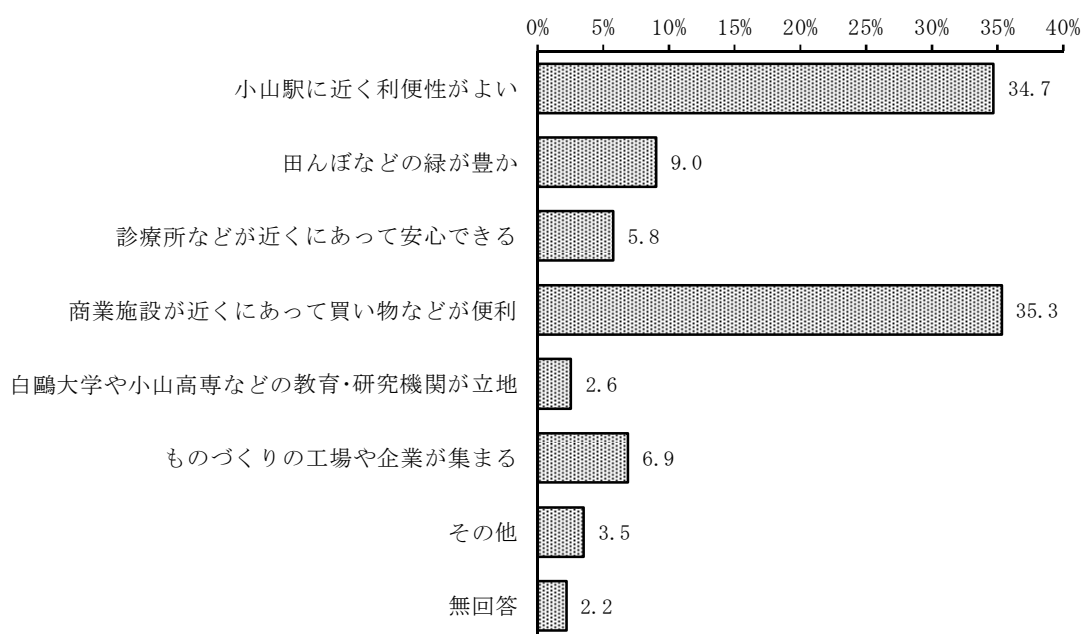
①沿線地域の魅力

沿線地域の魅力は、「小山駅に近く利便性がよい」と「商業施設が近くにあって買い物など便利」が突出している。

次いで、「田んぼなどの緑が豊か」や「ものづくりの工場や企業が集まる」が多くなっている。

項目名	集計値	構成比 (%)
小山駅に近く利便性がよい	922	34.7
田んぼなどの緑が豊か	240	9.0
診療所などが近くにあって安心できる	153	5.8
商業施設が近くにあって買い物などが便利	938	35.3
白鷗大学や小山高専などの教育・研究機関が立地	68	2.6
ものづくりの工場や企業が集まる	183	6.9
その他	94	3.5
無回答	58	2.2
合計	2,656	100.0

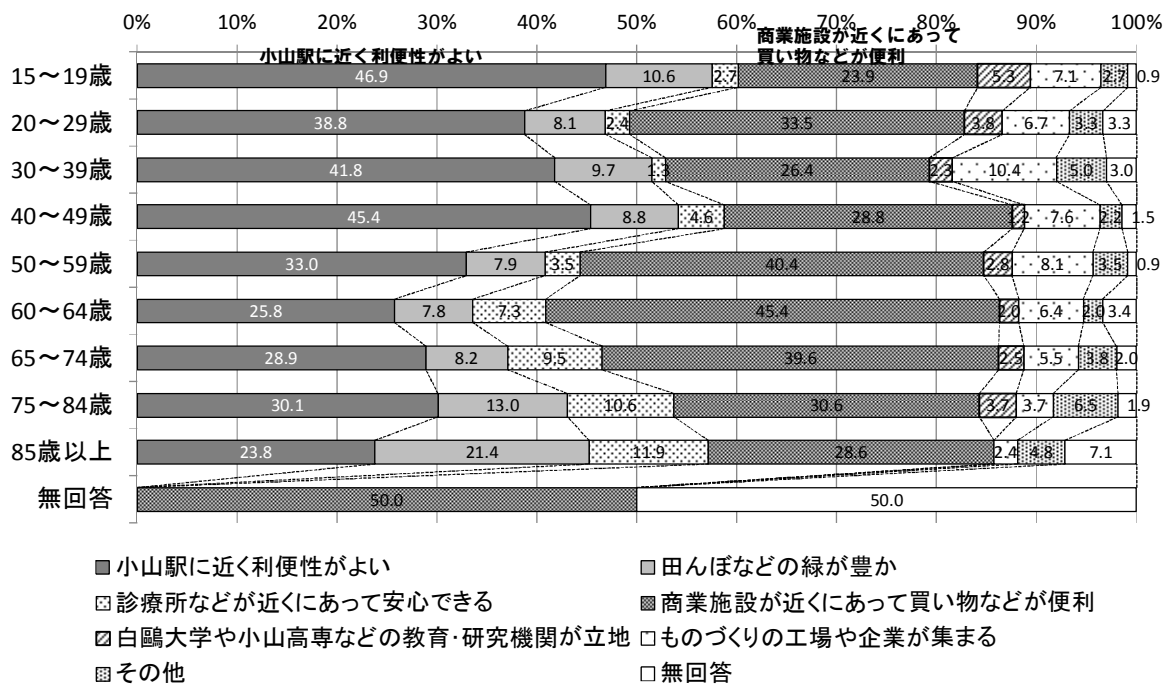
N=2,656



10代から40代の比較的若い世代が「小山駅に近く利便性がよい」ことを比較的高く評価している。

これに対し、50代以上の世代は「商業施設が近くにあつて買い物などが便利」を高く評価している。

また、60代以上の高齢の世帯は「診療所などが近くにあつて安心できる」の割合が比較的大きい。

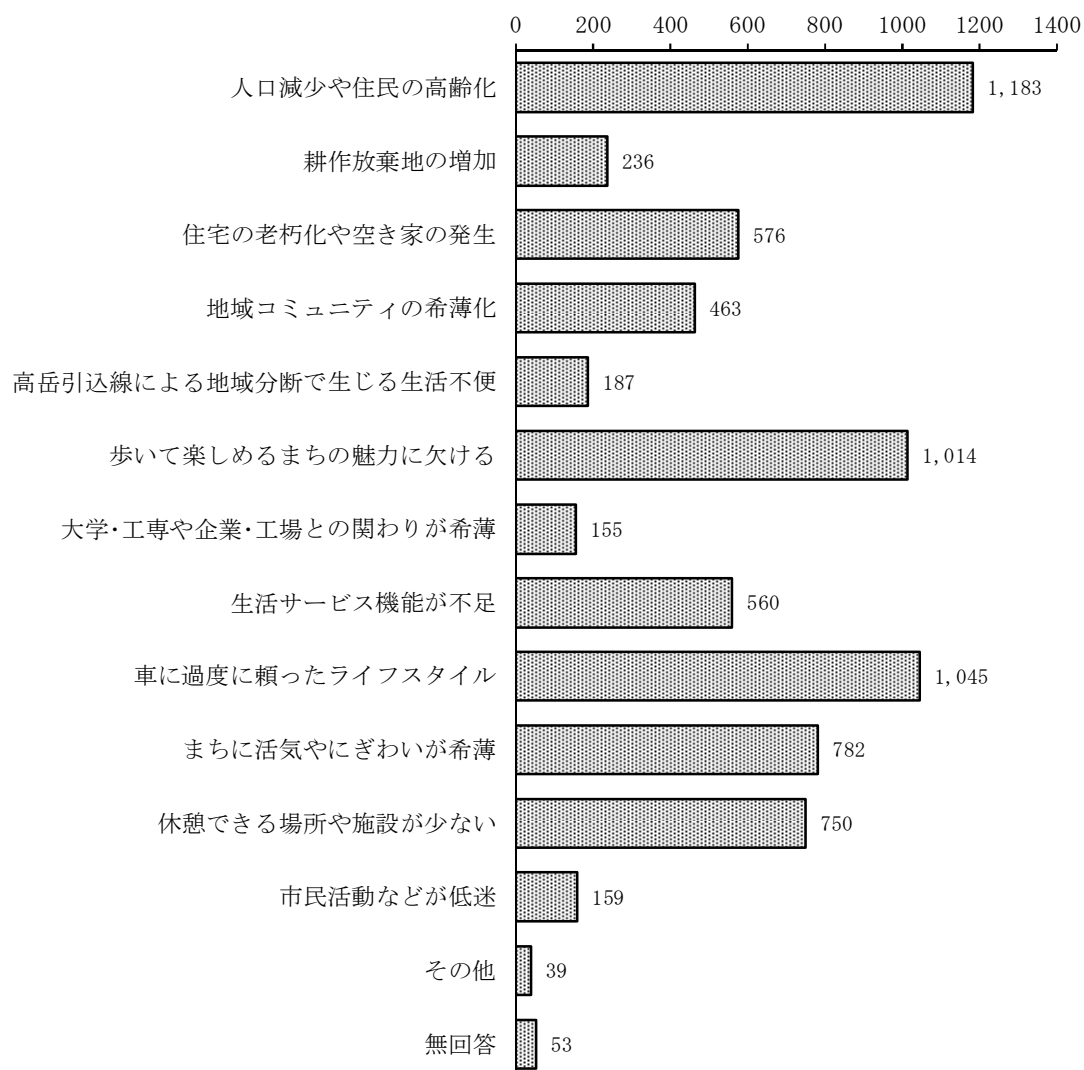


②沿線の課題

沿線の課題は、「人口減少や住民の高齢化」が最も多く、次いで「歩いて楽しめるまちの魅力に欠ける」「車に過度に頼ったライフスタイル」が多くなっている。

項目名 【3つまでの複数回答】	集計値
人口減少や住民の高齢化	1,183
耕作放棄地の増加	236
住宅の老朽化や空き家の発生	576
地域コミュニティの希薄化	463
高岳引込線による地域分断で生じる生活不便	187
歩いて楽しめるまちの魅力に欠ける	1,014
大学・工専や企業・工場との関わりが希薄	155
生活サービス機能が不足	560
車に過度に頼ったライフスタイル	1,045
まちに活気やにぎわいが希薄	782
休憩できる場所や施設が少ない	750
市民活動などが低迷	159
その他	39
無回答	53
合計	7,202

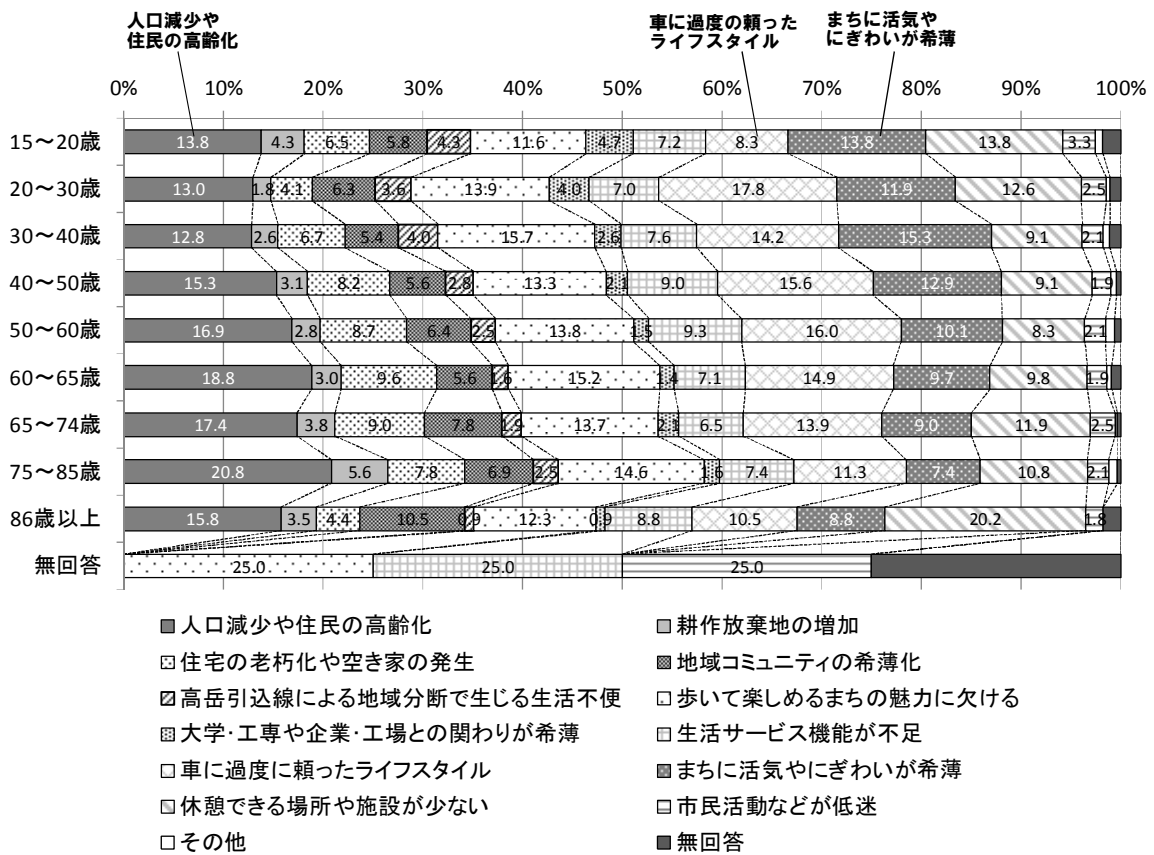
N=2,656（複数回答）



20代から40代の比較的若い世代は「車に過度の頼ったライフスタイル」や「まちに活気やにぎわいが希薄」の割合が比較的大きい。

これに対し、60代以上は「人口減少や住民の高齢化」の割合が大きい。

「歩いて楽しめるまちの魅力に欠ける」と「休憩できる場所や施設が少ない」の割合は、すべての世帯で大きい。

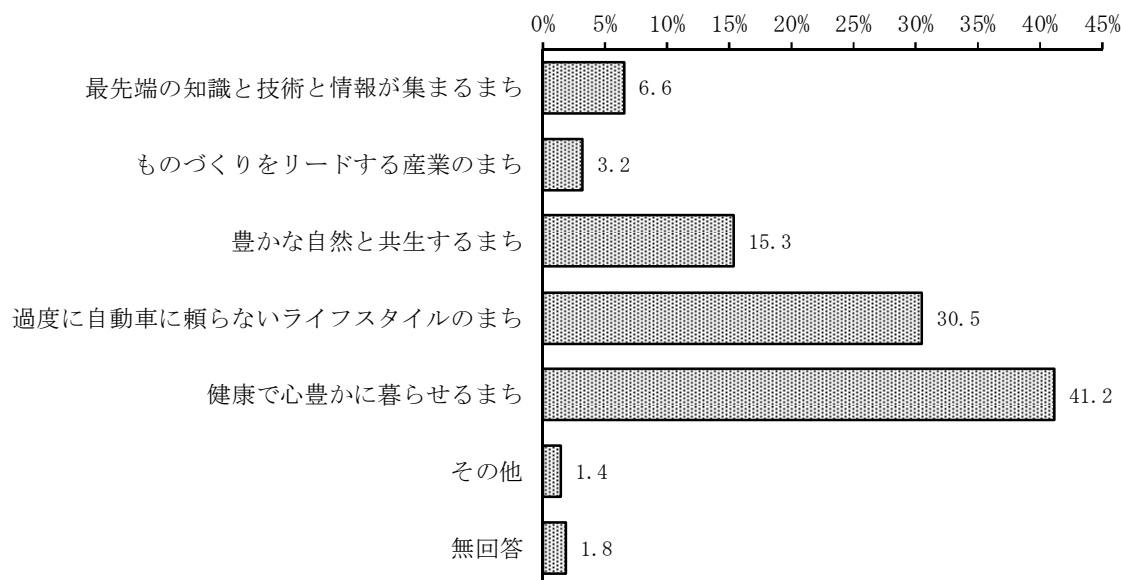


③思い描く今後の地域の姿

思い描く今後の地域の姿は、「健康で心豊かに暮らせるまち」が最も多く、「過度に自動車に頼らないライフスタイルのまち」が次いでいる。

項目名	集計値	構成比 (%)
最先端の知識と技術と情報が集まるまち	174	6.6
ものづくりをリードする産業のまち	85	3.2
豊かな自然と共生するまち	407	15.3
過度に自動車に頼らないライフスタイルのまち	810	30.5
健康で心豊かに暮らせるまち	1,093	41.2
その他	38	1.4
無回答	49	1.8
合計	2,656	100.0

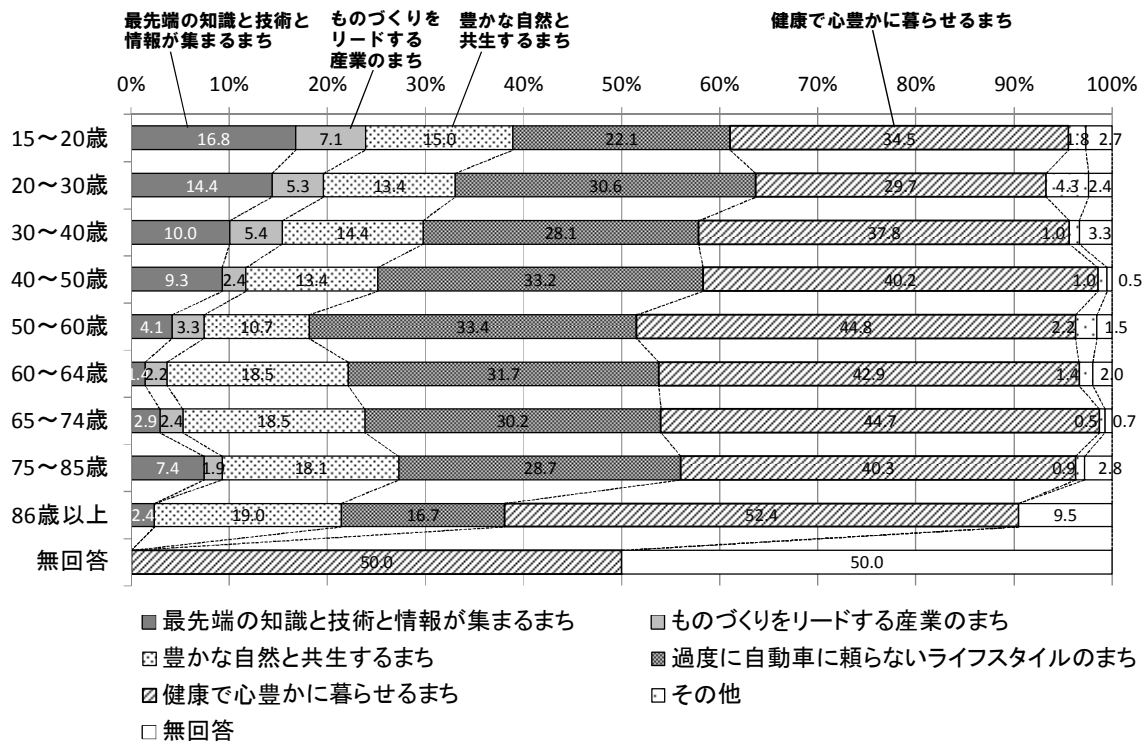
N=2,656



10代、20代などの若い世代ほど「最先端の知識と技術と情報が集まるまち」や「ものづくりをリードする産業のまち」の割合が比較的大きい。

これに対し、60代以上の世代は「豊かな自然と共生するまち」の割合が比較的大きい。

「健康で心豊かに暮らせるまち」はすべての世代で割合が大きい。

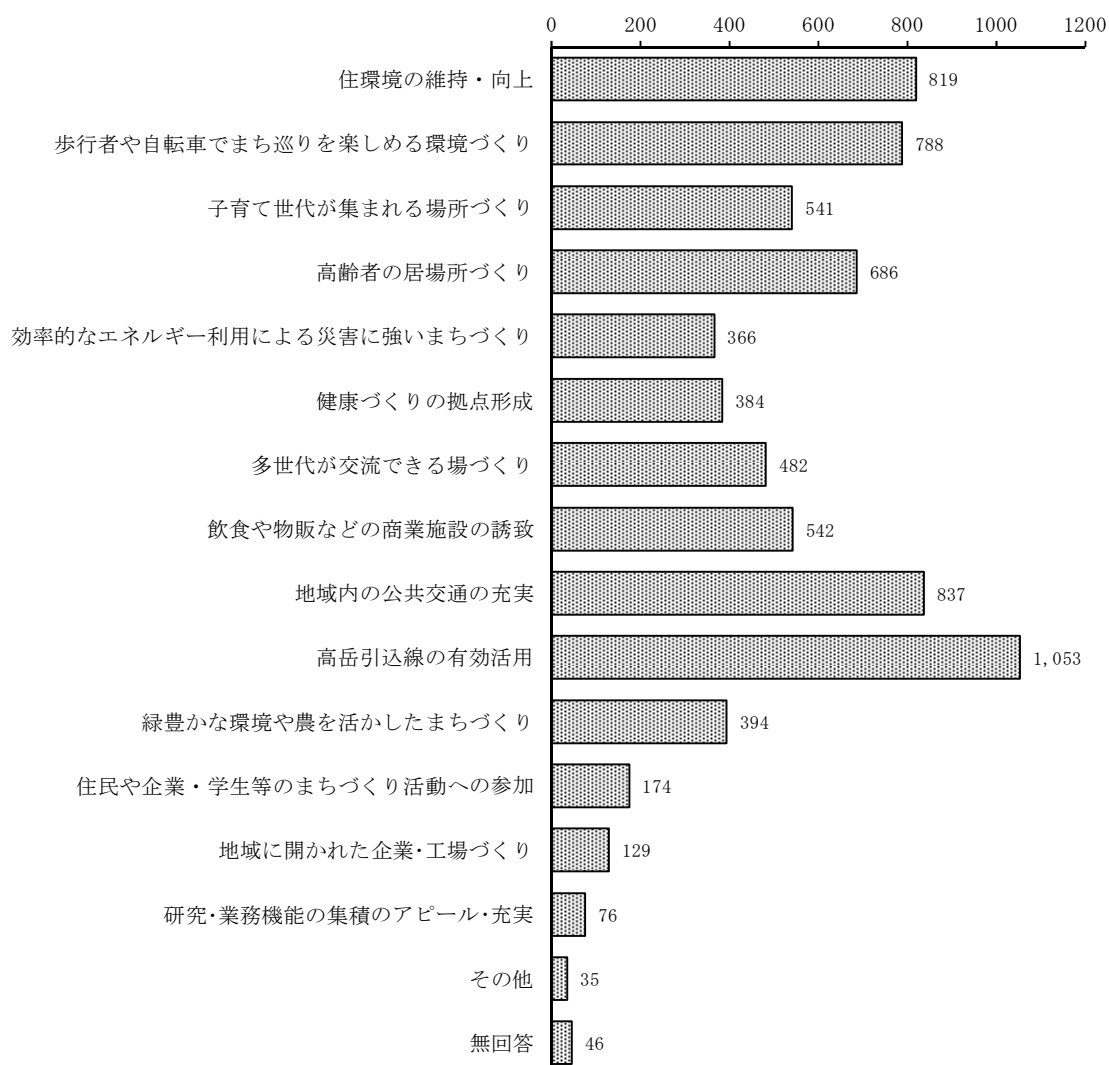


④今後必要な取り組み

今後必要な取り組みは、「高岳引込線の有効活用」が最も多く、次いで「地域内の公共交通の充実」「住環境の維持・向上」「歩行者や自転車でまち巡りを楽しめる環境づくり」「高齢者の居場所づくり」が多くなっている。

項目名 【3つまでの複数回答】	集計値
住環境の維持・向上	819
歩行者や自転車でまち巡りを楽しめる環境づくり	788
子育て世代が集まれる場所づくり	541
高齢者の居場所づくり	686
効率的なエネルギー利用による災害に強いまちづくり	366
健康づくりの拠点形成	384
多世代が交流できる場づくり	482
飲食や物販などの商業施設の誘致	542
地域内の公共交通の充実	837
高岳引込線の有効活用	1,053
緑豊かな環境や農を活かしたまちづくり	394
住民や企業・学生等のまちづくり活動への参加	174
地域に開かれた企業・工場づくり	129
研究・業務機能の集積のアピール・充実	76
その他	35
無回答	46
合計	7,352

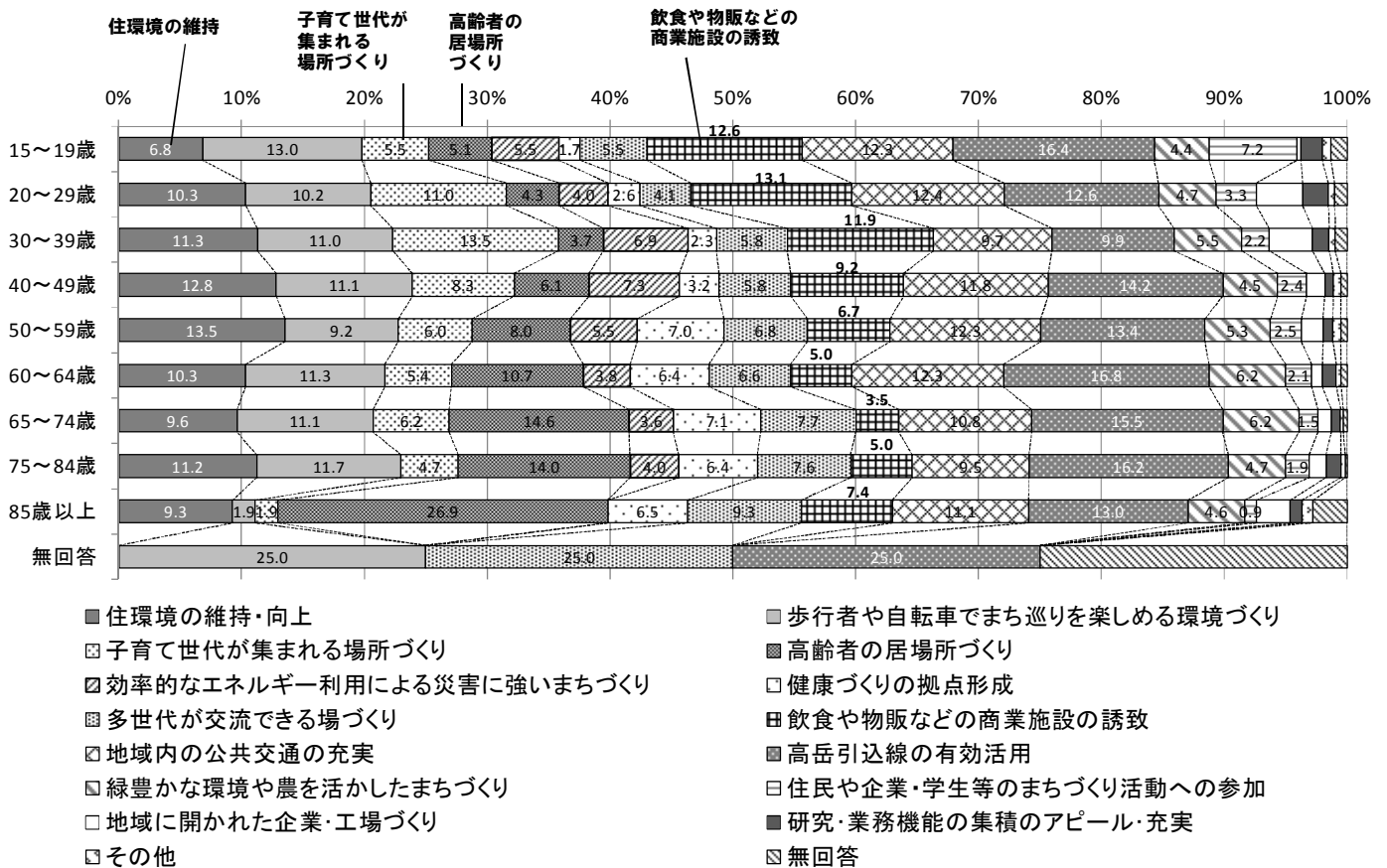
N=2,656（複数回答）



10代、20代、30代の比較的若い世代は「子育て世代が集まれる場所づくり」や「飲食や物販などの商業施設の誘致」の割合が比較的大きい。

これに対し、40代や50代は「住環境の維持」の割合が比較的大きく、60代以上は「高齢者の居場所づくり」や「高岳引込線の有効活用」の割合が比較的大きい。

「歩行者や自転車でまち巡りを楽しめる環境づくり」や「地域内の公共交通の充実」、「高岳引込線の有効活用」はすべての世代で割合が大きい。



2) 高岳引込線に路面電車を走らせることについて（沿線のまちは現況を想定）

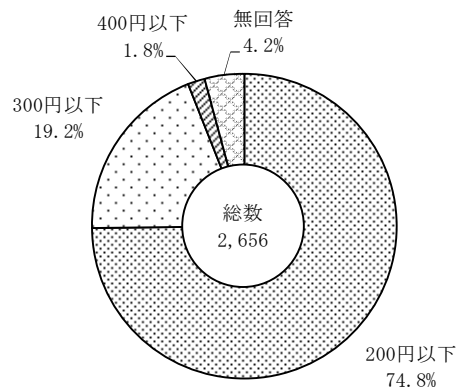
■運行条件

①運賃（全区間同じ料金とした場合、最大いくらなら乗りますか。（1つ選択））

「200円以下」が約7割を占める。次いで「300円以下」が約2割となっている。

項目名	集計値	構成比 (%)
200円以下	1,987	74.8
300円以下	510	19.2
400円以下	48	1.8
無回答	111	4.2
合計	2,656	100.0

N=2,656

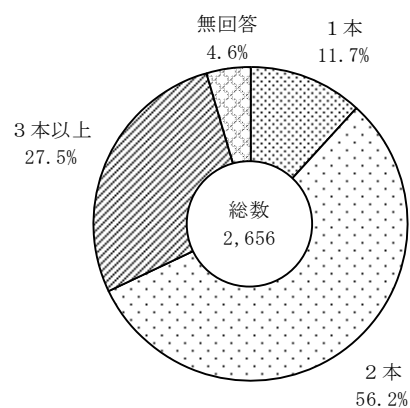


②運行本数（1時間に上り下りそれぞれ何本ずつ運行すれば乗りますか。（1つ選択））

「2本」が最も多く約6割を占める。次いで「3本以上」が約3割と多くなっている。

項目名	集計値	構成比 (%)
1本	312	11.7
2本	1,493	56.2
3本以上	730	27.5
無回答	121	4.6
合計	2,656	100.0

N=2,656



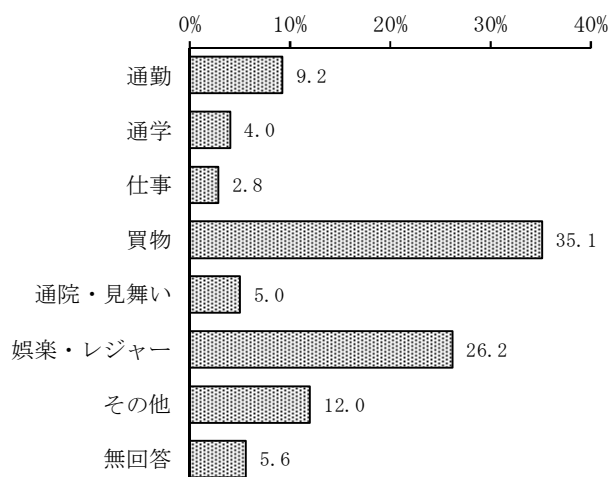
■利用方法

①- 1 利用目的（どのような目的で利用しますか。（主なものを1つ選択））

利用目的は「買物」が最も多く、次いで「娯楽・レジャー」が多くなっている。

項目名	集計値	構成比 (%)
通勤	245	9.2
通学	107	4.0
仕事	75	2.8
買物	933	35.1
通院・見舞い	133	5.0
娯楽・レジャー	696	26.2
その他	319	12.0
無回答	148	5.6
合計	2,656	100.0

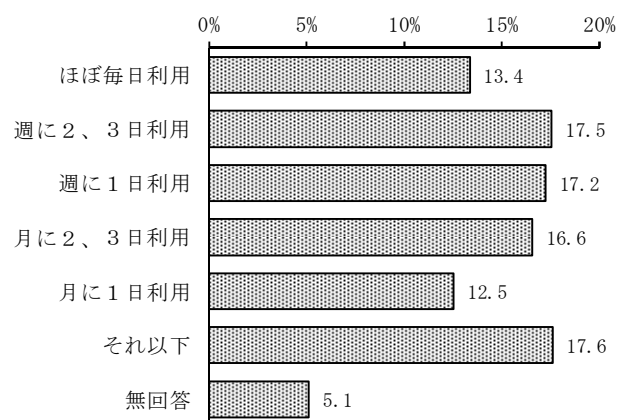
N=2,656



① -2 利用意向（ご利用の頻度はいかがですか。（1つ選択））

利用意向は、「ほぼ毎日」と「週に2、3日」「週に1日」の合計が約48.1%、「月に2、3日」「月に1日」「それ以下」の合計が46.7%と、週1日以上の利用とそれ以下の利用に分かれている。

項目名	集計値	構成比 (%)
ほぼ毎日利用	355	13.4
週に2、3日利用	466	17.5
週に1日利用	458	17.2
月に2、3日利用	440	16.6
月に1日利用	333	12.5
それ以下	468	17.6
無回答	136	5.1
合計	2,656	100.0



N=2,656

① -3(普段の)外出時の主な交通手段とその方の利用意向

普段の外出時に公共交通を利用している方（鉄道・バス）は、利用意向が高く、「ほぼ毎日利用」と「週に2、3日利用」および「週に1日利用」を合わせた週1日以上が70%近くに達する。また、バイク利用者も同様に、利用意向が高い傾向にある。

普段の外出時に自動車および自転車を利用している方についても、40~50%近くが週1日以上の利用意向となっている。

項目名	集計値	利用者意向内訳													
		ほぼ毎日	%	週に2、3日	%	週に1日	%	月に2、3日	%	月に1日	%	それ以下	%	無回答	%
鉄道	253	115	45.9	24	8.7	25	10.0	28	11.0	15	6.1	34	13.1	12	5.2
コミュニティバス(おーバス)	53	14	27.3	13	24.7	8	15.6	7	14.3	3	5.2	3	5.2	5	7.8
その他のバス(企業バス等)	10	2	20.0	5	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	30.0	0	0.0
自動車(自分で運転)	1,267	104	8.3	216	17.0	215	16.9	234	18.3	188	14.9	258	20.4	52	4.1
自動車(送迎、同乗)	435	52	12.4	90	20.5	82	18.9	70	16.0	48	10.8	69	15.9	24	5.1
バイク	16	3	18.8	6	37.5	2	12.5	2	12.5	0	0.0	2	12.5	1	6.3
自転車	296	41	13.9	52	17.2	59	19.6	46	15.3	34	11.5	48	16.6	16	6.1
徒歩のみ	137	6	4.4	27	19.7	26	19.0	26	19.0	19	13.9	29	21.9	4	2.2
無回答	189	18	9.5	33	17.5	41	21.7	27	14.3	26	13.8	22	11.6	22	11.6
合計	2,656	355		466		458		440		333		468		136	

3. 企業・学校へのアンケート調査結果

(1) 実施概要

調査日	2016年8月～9月
調査対象	高岳引込線沿線に立地する8企業、小山高専および白鷗大学
調査方法	総務等に聞き取り
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員の通勤交通、学生の通学交通 ・来訪者の状況 ・高岳引込線の沿線について ・高岳引込線に路面電車を走らせることについて
回収数	全企業・学校から回答を得た

(2) 結果

① 企業

企業名	小山駅利用の従業員数（日）	来訪者数（年間）
A社	コミュニティバス：44 自転車：1	1,000
B社	—	600
C社	企業バス：30 自転車：120	14,000
D社	—	120
E社	自転車：1	150
F社	—	20
G社	—	500
H社	コミュニティバス：3	(買物客のため対象外)
合計	199人/日	16,390人/年

※通勤者・来訪者ともに不明を除く
※小山駅利用の通勤者のうち、タクシー・バイク・徒歩は除いた。

② 小山高専

交通手段	小山駅利用の学生数（平日）	来訪者数（年間）
コミュニティバス	56	7,045
自転車	548	
徒歩	0	
自動車（自家用車）	—	
自動車（送迎）	—	
タクシー	—	
借り上げバス	—	
合計	604人/平日	7045人/年

4. アンケート調査結果のまとめ

(1) 高岳引込線の沿線地域について

●立地特性に起因する利便性の良さが評価されている

- 高岳引込線の沿線地域は、小山駅や商業施設に近接する利便性の良さが魅力と認識されている。
- 特に若い世代は小山駅に近接する利便性を評価し、高齢の世代は商業施設が近接する利便性を評価している。

●マイカーに頼らないライフスタイルの実現が望まれている

- 人口減少や高齢化の問題も相まって、過度に自動車に頼らないライフスタイルに転換することが重要と認識されている。

●地域内公共交通の充実が強く求められている

- 車社会からの脱却に向け、高岳引込線の有効活用と地域内の公共交通の充実による地域交通の機能強化・拡充が強く求められている。

●まちの魅力向上（都市機能の充実）が求められている

- 地域内は、歩いて楽しめる魅力に欠けることや活気やにぎわいが希薄であるなど、まちの機能面の課題も問題視されている。
- 住環境の維持・向上をはじめ、まち巡りを楽しめる環境づくり、子どもや学生・子育て世代や高齢者などの多世代の居場所づくり、飲食や物販などの商業施設の誘致などによる都市機能の充実が求められている。
- 特に、若い世代や高齢者は居場所づくりを求め、中年層は住環境の維持・向上を求める。

●人口減少や高齢化社会にあっても豊かに暮らせるまちへ

- 将来は、過度に自動車に頼ることなく、自然と共生しながら歩いて健康で心豊かに暮らせるまちになることが希望されている。
- 高齢の世代ほど、自然との共生や健康で心豊かなまちを指向する傾向がある。一方、若者は、人や情報、技術が集まり研究やものづくりが活性化したまちを望む傾向がある。

(2) 高岳引込線に路面電車を走らせることについて

●200 円以下の運賃で 1 時間に 3 本の運行に需要が集中

- ・高岳引込線に路面電車を走らせることを想定した場合、運賃は 200 円以下、運行本数は 1 時間に 3 本(上下それぞれ)を希望する意見が 9 割を占める結果となった。

●買物や娯楽・レジャーでの利用が見込まれる

- ・路面電車は、通勤・通学のシーンだけでなく、買物や娯楽・レジャーで利用する意見が最多で過半数を占める結果となった。

●マイカー利用者の約半数は週 1 日以上利用する意向がある

- ・利用頻度については、週 1 回以上の利用意向が半数、約 8 割の方が月に 1 日以上利用する意向がある。
- ・一方、普段マイカーを利用している方も半数近くが週に 1 日以上、8 割近くが月に 1 日以上利用し、公共交通への転換が見込まれる。

●企業や学校は期待を寄せる一方、運行条件や操業等への影響を課題と認識

- ・運行メリットを感じ期待を寄せる企業がある一方、交代制の勤務形態に合うダイヤ設定や適切な運賃設定、通勤や搬入出時の車両出入りへの影響などを課題と考えており、実際に運行してみないとわからないとする意見もある。
- ・小山高専は、自転車等に替わる安全安心な生徒の交通手段として、高岳引込線の路面電車に期待を寄せている。